

ここがすごい！！ 一宮西病院の眼科 めめめ

vol. ①

術中画像診断併用 低侵襲硝子体手術 (術中OCT+MIVS)

当院ではこれまで、硝子体手術装置 (Constellation[®]) によるMIVSを行ってきました。そこへ新たに今年4月、高性能手術顕微鏡 (Proveo8[®]) を導入しました。そして、さらに！ 術中光干渉断層計装置 (EnFocus Ultra HD[®]) も購入を決定！！ 5月中に導入を予定しております。

この新たな手術顕微鏡は、業界屈指のサイズとなる対物レンズを有し、Fusion Optics機能 (下記参照)、4点の同軸照明による良好なRed Reflexなどにより、白内障手術や硝子体手術に対して、これまでにない最上級のパフォーマンスを示してくれます。ここに、術中高速連続撮影を可能にした光干渉断層計 (OCT) であるEnFocusを合わせることで、術中診断、治療評価をその場で行うことが出来るようになります。さらに、術中操作による組織への影響を、断層画像から他覚的に評価することが可能となるため、より低侵襲な治療を目指すことが出来るようになります。今や網膜疾患の診断にはなくてはならない外来検査機器である光干渉断層計 (OCT) を手術顕微鏡に内蔵させることで、次世代の治療、更なる低侵襲硝子体手術を提供することが可能となります。

ご紹介いただいた患者様を最高の結果でお返し出来るよう、これからも全力で取り組んで参ります。

手術顕微鏡 (Proveo8[®])



- 眼科顕微鏡初！！ Fusion Optics機能
⇒ レンズの特長上両立が難しいとされていた、高い解像度と深い焦点、深度を可能にした観察システム。
- 業界屈指の対物レンズ
⇒ レンズ径68mmと非常に厚いレンズ厚により、高い集光率と立体視、色収差の低減が可能。
- BIOM5広観察システム
⇒ これまでのどの非接触型広観察レンズよりも、さらにワイドにさらに色収差が低減されたレンズを使用。

- 日本国内で購入できる術中OCTの中でも最新機種。
- 術者の手術操作に全く影響することなく撮影することが可能。
- これまでの術中OCT (他社製) よりも、より鮮明な画像を得ることができ、術野とOCT画像の間にはほぼタイムラグがないため術者もストレスを感じることなく診断をかけながら治療を行うことが可能。
- 術前に外来OCTでの詳しい検査が出来ない患者さんにも術中OCTにてその場で検査診断することが可能。

術中OCT (エンフォーカス[®])



すべては患者様の『見たい！』という思いに応えるため！